

# ふくしきりん。

きりほらなおよ  
桐原奈緒也さん

社会福祉法人オークス・ウェルフェア  
特別養護老人ホームオークス東海(東海村)



社会福祉法人オークス・ウェルフェアの「特別養護老人ホームオークス東海」でユニットリーダーを務める桐原奈緒也さん。福祉の仕事に就くきっかけや仕事のやりがいについてお話を伺いました。

## 「人と関わる仕事がしたい」と福祉の道を決意——

「もともとは神奈川県で飲食業に就いていましたが、実家の茨城に戻るタイミングで色々な資格を取得しようと思っていました。そんなとき、ふとテレビでヘルパー2級の養成講座CMを見て、『やはり人と関わる仕事がしたい！その人が求めているものを引き出して答えを見つける仕事がしたい！』と想い、

すぐに申し込みました」と福祉の道を目指すきっかけを振り返る桐原奈緒也さん。

もともと人と話すのが好きで、飲食業で培ったお客様の笑顔を引き出すスキルは介護でも役立つと考えていたと同時に、「自分が知らない高齢者や障がいのある方の世界がどういうものなのか、興味があった」と語ります。

ヘルパーの資格取得後は、高齢者施設で現場実習を行い、その後、障がい者施設で3年間介護士としてのスキルを磨き、現在は「オークス東海」でユニットリーダーとして利用者様の支援をはじめ、スタッフの教育や指導を行っています。

# 利用者の笑顔を引き出す！

## 介護とは利用者の人生に関わる仕事

日々、福祉の現場で利用者に真摯に向き合っている桐原さんですが、利用者の笑顔を引き出すためにコミュニケーションを重ねると同時に自らもやりがいをもって仕事をしています。

「この仕事に就いて、辛いとか、辞めたいとか思ったことは一度もありません。日々楽しみながら仕事を行い、もちろんときには失敗もしますが、その反省を次に生かし、プライドをもって仕事をしています。それと同時に、利用者が一番幸せと感じることはなんだろうと考えているときに仕事のやりがいでもあります。高齢者介護とは、いくなれば人生のエピローグ。利用者がよりよい人生を送るためにはどうすればよいのか。息づかい、目線など、利用者の日々のちょっとした変化に気づくことが大切だと思っています。そのために日々のコミュニケーションをはじめ、自分に足りないスキルがあれば学び、そして仲間とともに知恵を出し合っています。

当然、介護は一朝一夕でできる仕事ではありません。重要なのは、ひとつずつ階段を上ることだと思います。たとえば、リハビリでそれまでの症状が改善すれば次のステップに進み、また次の介護方法を考え、実践する。こうしたひとつずつの積み重ねが利用者の生活を豊かにするものだと思いますね」（桐原さん）

## 事業所の枠を超えた福祉の活動

桐原さんは、現場だけではなく、いばらき中央福祉専門学校が運営している「いばふく（茨城を福祉

で元気にするプロジェクト）」で福祉の魅力発信や普及・啓発活動も行っています。

「いま、若手の介護士の方や外国人の技能実習生の研修など、介護技術の講師を務めさせていただいていますが、生徒さんから学ぶことも多いですね。福祉の現場での率直な疑問や不安を投げかけてもらい、それを少しでも解消し、不安を取り除けたときの表情をみるものやりがいのひとつですね」（桐原さん）

そして、今後のビジョンについて桐原さんは次のように語ります。

「まだまだ福祉の仕事知らない方も多いと思いますので、ゆくゆくは事業所の仲間だけでなく、この枠を超えて、私がこれまで培ってきた介護の知識や技術を多くの方々に伝え、地域の方々に福祉の素晴らしさを知ってもらう活動をしていきたいですね」（桐原さん）

最後にこれから福祉の道を目指す方にメッセージをいただきました。

「サービスの質を向上すると満足度も向上する。福祉の仕事はウェディングプランナーと同じだと思っています。人を楽しませるのが好きな方は向いていると思いますね。利用者一人ひとりに個性があり、それぞれに合った介護を通して多くの方の笑顔を引き出すクリエイティブな能力や発想力も求められているのではないのでしょうか」（桐原さん）

より輝かしい未来に向かって日々現場で働く桐原さん。利用者との笑顔で向き合っているひたむきな姿勢がここにはありました。



福祉の魅力語る桐原さん



毎日の積み重ねが利用者の生活を豊かにする